

なんじゃもんじゃ

Vol. 38

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine



恵那病院HP 病院Facebook



当院は平成22年より
(財)日本医療機能評価
機構の認定を受けてお
ります。

INDEX

癌と診断されたら・・・	・・・1
防災WG	・・・2
恵那市健幸フェスタinえな	・・・3
市立恵那病院再整備事業について	・・・3
外来担当表	・・・4
クイズ	・・・4
編集後記	・・・4

癌と診断されたら・・・



ある日あなたは体調不良があり病院を受診します。そこで症状に応じいろいろな検査を受けられます。その結果、担当医より「あなたは癌です」と告げられます。そんな時あなたはどうかされますか？

一昔前は、患者さんの癌の診断をしたとき、担当医はご本人に内緒でご家族にその説明を行っていました。癌を患ったご本人に「癌であること」を伝えないことは今思えば非常に楽なことでした。なぜなら患者さんに「癌の告知をしない」ということで、患者さんに衝撃も苦悩も与えずに済む事となり、医療者は患者さんの苦しみ、辛さを受け入れずに済んでしまうからです。患者さんと一緒に悩むこともありません。ただ第三者として患者さんの思いを受け止めることなく病態を判断し、治療を選択し遂行してゆくのみだったのです。もちろん患者さんのために最もよいと思われる治療を選択し、遂行してはいたのですが……。

しかし今は違います。患者さんご本人に「癌であること」をお伝えします。

がんと告げられたとき、あなたは大変な衝撃を受けることと思います。「頭が真っ白になった」「ショックで涙が出た」「告知を受けた後、どうやって家に帰ったのか思い出せない」などといったことが起こります。また怒りが込み上げてきたり、気持ちが不安定になったりもします。食欲がない、不安で眠れない、前向きな気持ちになれないなど、こうした心の動きは、がんと告げられたとき、誰にでも起こることなのです。

「不安感が非常に強い」「眠れない」「食べられなくてつらい」といった悩みは、むしろ自然なことととらえて、担当医や看護師、薬剤師に相談することから始めてみましょう。安心につながる材料になるはずですが。また分からないこと、疑問に思われることを遠慮なくお伝え下さい。どんな些細なことでも結構です。ご自分の悩みであってもかまいません。

一緒に問題を解決してゆきましょう。

そうして一つ一つ問題を解決してゆくことでこれから始まる治療に対して必ず前向きになれるはずですが。

我々スタッフは癌であることを患者さんにお伝えする時大きな決意をします「患者さんの思い、おかれている環境、境遇、ご家族などすべてのことを受け入れ、ともに

悩み、一番の解決方法を考えてゆこうと。また患者さんにとって最善の治療を提供しようとする……。

最善の癌治療とは・・・

2000年を過ぎたころよりそれぞれの癌腫に対し、標準的な治療を示した癌治療ガイドラインが出版されるようになりました。これは厚労省ががん治療の均てん化(生物が等しく雨露の恵みに潤うように各人が平等に利益を得ること)を目指して全国にがん拠点病院を選定し、がん医療の質の向上と均一化に着手したことに端を発します。このガイドラインが作成されたことにより①がんの標準治療の提示、②施設間格差の解消、③過剰診療・治療、過小診療・治療の解消が可能となるとされています。(「大腸がん治療ガイドライン初版 序」より引用)実際当院でもこのガイドラインを参考に患者さんの治療法を考えてゆきます。しかしそれだけで良いのでしょうか？

同じ癌腫であってもそれに罹患する患者さんは年齢、性別、体力、合併症など様々です。加えて個々でそれぞれの事情があり、人生に対する思いがあります。患者さん個々の事情に応じた治療法を患者さんとともに、患者さんの立場に立って考え、患者さんに充分納得していただいたうえで治療を行ってゆく、これが「最善のがん治療」と考えます。もちろんそこには当院での治療はもとより、他院での治療、セカンドオピニオン等も含まれます。要はあなたにとって最善の選択が出来ればよいのです。他院で治療をされた後、また治療中でも御気軽に相談ください。一度お話を伺えばその時点から我々スタッフとあなたは「癌と闘う」同志なのです。

もしあなたが「あなたは癌です」と告げられたらどうされますか？「これからどうなってゆくのだろうか？」「これからどうしたらよいのか？」などいろいろ考えられるかと思いますが。そんな時、「がん治療のコンシェルジュ」となるべく日夜研鑽を積んでいる当院スタッフにあなた思いをぶつけてみてください。色々とお話をしてあなたにとって最も良い道を共に考え、治療を行ってゆきましょう。

(手術部長 太田博彰)

防災WG

委員会紹介



平成23年3月11日に起きた東日本大震災、記憶に新しいネパールの大地震、最近では国内でも噴火や地震等自然災害が増えています。東海地震が今後30年以内に起きる可能性は87%といわれており、いつ起きるか分からない災害に備え訓練を通し、災害発生時どうしていくべきかを委員会で取り組んでいます。

当院では、総合防災避難訓練・トリアージ訓練・夜間防災避難訓練と年に3回訓練を実施しています。今回は5月22日に実施された総合防災避難訓練の紹介をします。

訓練は、午後2時東海地域に震度6弱の直下型地震が起き、その直後火災が発生するという設定で行いました。主に火災発生場所にいる職員の初動対応と模擬患者を設定し病棟から避難することに重点をおきました。



4月に入職した職員には積極的に参加してもらい、実際に災害が起きた際どう行動したら良いかを実践してもらいました。災害対策のマニュアルはあるのですが、発災時にマニュアルを確認している余裕がないことから、分かりやすくしたアクションカードを各部署作成しています。また、職員誰もがそれを見て行動できるように訓練を通し確認し見直しを行っています。アクションカードの他、災害時報告書を

すぐ取り出せるようにする等各部署で工夫をしています。個々の取組、意識の違いにより発災時の行動に大きく違いが生じてしまうので職員全員が同じ認識を持つことが今後の課題となっていきます。

避難訓練終了後には、新入職員を対象に消火器と消火栓の取扱い方法の勉強会も実施しました。消火器の取扱い方法は消防の方から指導を受け、水ではありませんが実際に対象物に向けての消火を体験しました。



訓練を通し課題もでてきていますので修正を重ね、いざという時患者様や地域の皆様の力になれるよう努力していきます。

災害が起きた時、まず初めに自分を守るのは自分です。こちらを読んで頂いたのを機に、家の中でできる防災対策、避難場所の確認等自分でできることを“いざ”という時の為に考えてみてはいかがでしょうか。

(事務部 林佳代子)



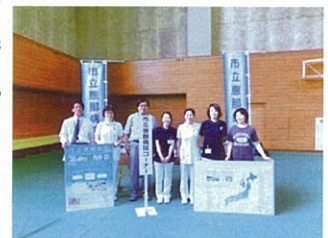
恵那市健幸フェスタinえな

平成27年6月7日(日)にまきがね公園一帯で「恵那市健幸フェスタinえな」のイベントがあり、当院も参加させて頂きました。今年は恵那市で健幸都市宣言をして、例年6月開催の「健康・福祉祭」と10月開催の「レクスポ祭」を合同した大イベントとなりました。開会式はまきがね体育館で開催され、古屋衆議院議員を始め多くの議員の方が参加されていました。

当院のイベントは、「血糖検査」、「アロマテラピー」、「助産師相談(育児相談)」を行いました。利用者数は213人(血糖検査:162人、

アロマ:30人、助産師相談:21人)と多くの方にご利用頂きました。

当院は、平成16年度から毎年出展させて頂き、今年で12年目となります。今後も基本理念に沿って、地域住民の健康推進となるようなイベントの参加や開催等をしていきたいと思っています。



(事務部 今井裕志)

市立恵那病院再整備事業について



現在、新病院建設工事が急ピッチで進められています。

工事に伴い、止むを得ず振動や騒音が発生する作業を実施します。

患者様、ご家族様にはご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

本体工事の完成は、平成28年9月30日の予定です。同年11月には、全ての病院機能の移転を予定しています。

工事は、「建築工事」「電気設備工事」「機械設備工事」の3特定建設工事共同企業体(JV)により進められています。

建築工事は、岐建・板垣JV。電気設備工事は、トーエネック・山岡電気JV。

機械設備工事は、足立・西尾JVとなります。新病院の概要は、以下のとおりです。

造成面積:約5.0ha(50,000㎡)
構造:鉄筋コンクリート造、免震構造
階数:地上4階
高さ:19.15m(最高22.7m)
延床面積:16,498㎡
病床数:199床

※全体竣工:平成30年3月(予定)外構工事や既存建物の一部解体が終了する時期になります。



新病院外観イメージ図



平成27年6月現在の工事状況